夢アイデア企画書

アイデア
　校内里池づくりの実践

背景
　言われている地球環境の温暖化と寒冷化はおよそ二十万年単位に山と谷の曲線が描け、現在は温暖化部分のピークあたりにあるとされる。従って日照りが長く続く一方、長期の土砂降りがあるなど気候が極端に偏ることが多い上、災害もそれら両極端の中で重度に頻繁に起きると考えられている。従って十分にあるいは早期に地球環境変化に馴染む、急変する気象に馴染むまちづくり人づくりが欠かせないということになる。
　そうした中で、団塊世代以上、あるいは五十代、六十代は親から話を聞いたり、子の時代に少々の体験で身体が覚えている部分が少なくない。が、問題は若い親からのそうした機会が極端に少ない子どもの世代と考える。
　そこで子供世代を対象に小・中学校内里池づくりを実施し、授業や校内活動、部活を通じ全生徒に触れ合い体験機会を与える必要がある。

方法
　校内里池づくりの基本は池づくりである。水が留まるだけでなく上手に入れ替わる仕組みを持ったものが最適である。つまりビオトープの実践図式の存在である。真ん中には橋、そして水の中、あるいは水辺に植物を植えて育てる。水の中、あるいは水辺に生き物を放ち育て見守る、ことが基本要素になる。植物は、ガマ、ヨシ、コウホネ、ハス、ウキクサなどなど。生き物はトンボ、カエル、フナ、ドジョウなどなど。すると鳥がやって来る。カモをはじめカワセミも、中にはフクロウも。生きとし生きるものは循環を基本とした最適環境の中で生き永らえることを、仮に水循環が過剰になるとどうなるかなどを含め正常と異変を頭だけで学ぶのでなく自ら手を差し伸べ、時に手を濡らし足を汚しながら学ぶというものである。

効果
　誰もが学校でそれを学べ身に着けることが出来る、共生意識がつながり、広がる。
　地球環境という長いスパーンの中での人類、気候や空気、水などとの循環の中で生きてゆく人間、そして生き物をはじめ身近な植物などと共生するする個人を意識するようになる。

　地球環境をはじめ気候や空気、水などの急変にも対処できる知恵と工夫が身につき実践に移され、結果として安全安心な上、豊かな人生が送れるとともに、世代を超えてつなぎ広げてゆくことができる。

#